

令和4年6月25日

# 南の風特集号女子日本代表ワールドカップに向けてⅢ

～ 恩塚ヘッドの目指すバスケットボール、就任からトルコ戦まで ～

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の続きです。

## 2 サイズのある（190～200cm以上）選手の抑え方

2m級の選手を止めるのは至難の技なのですが、何とか最少失点で抑えなければワールドカップ金メダルは見えてきません。

日本のバスケット界にとっての宿命は、海外の選手とのサイズとの戦い歴史と言えます。女子日本代表にとっても、リオ五輪のときの準決勝を懸けたオーストラリアとの一戦（カンパージ選手2m3cm）、東京五輪での決勝のアメリカ戦（グライナー選手2m3cm）、今年の2月に行われたワールドカップ予選のボスニア・ヘルツェゴビナ戦（ジョーンズ選手198cm）など、敗れた試合はいずれも2m級の選手を抑えることができなかった結果と言えます。3選手とも、WNBAのスーパースターです。

このようなサイズがあり身体能力のすぐれた選手を、どう封じるかは女子日本代表にとって大きな課題であります。

私は上記の3試合を映像で観たのですが、ペイントに入られてしまうと止めることはほぼできません。東京五輪の決勝でのアメリカのグライナー選手は、ダブルチームでもトリプルが来てもゴール下は確実に決めました。一人で30得点、5リバウンドの活躍でした。

今年2月のワールドカップ最終予選での、ボスニア・ヘルツェゴビナのジョーンズ選手も、ペイントでは止めることができず、36得点、23リバウンドを奪われました。

彼女たちを止めるためには、まずタイトに付いてプレッシャーを与え、ペイントに入れない努力を続けることしかありません。100%入れないことは無理かもしれませんが、そのくらいの覚悟をもってやらないと、入られたらやられます。トランジションのときにハーフコート付近から、2m級の選手にマッチアップする選手は、フェイスガード気味にコンタクトするようにします。密着して心理的にストレスを与え、思うように動けなくします。これを続けるためには、前号の1で書いたタイムシェアも同時に考えなければいけません。相手にマッチアップする選手が、如何にフィジカルが強くても40分間続けることは無理なので、タイムシェアして替わった選手も同等のタイトなコンタクトディフェンスで対応するようにします。ですから、そういった交代できる選手をしっかりと育てておく必要があります。

そして万に入られそうなら、早目のダブルチームを仕掛けます。ただ遅れたり（入られてからダブルチームしても遅い）、トリプルで行ったりしてしまうと、キックアウトからエキストラパスで外からのショットでやられることになるので要注意です。

チームの戦略・戦術として、何処を絞って守るのかは対戦相手によっても違ってくるとは思いますが、アメリカのような中と外に質の高いシュート確率を持つチームでは、データ分析からどちらを重点にして守るか、軽重をつける必要はあります。そのあたりはスタッフの決断になります。